

I. 卷頭言

『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告2010』を刊行いたします。

東北大学埋蔵文化財調査室は、施設整備などに先立つ、構内遺跡の記録保存のための調査と、それに関連する業務を担当する、東北大学の特定事業組織です。埋蔵文化財調査室では、『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』と『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』という、二種類の報告書を刊行しています。

施設整備などに伴う記録保存のための本調査については、その発掘調査報告書を、『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』（以下『調査報告』と略記）というシリーズ名で、各調査ごと刊行しています。『東北大学埋蔵文化財調査室年次報告』（以下『年次報告』と略記）は、埋蔵文化財調査室の事業概要を迅速に報告するという目的のために、毎年度ごとに報告しています。

以前は、『東北大学埋蔵文化財調査年報』という形で、発掘調査以外の各種事業を含む当該年度に実施した事業の概要報告と、実施した発掘調査報告の両方を、併せて掲載してきました。2007年度に実施した事業から、事業概要の報告と、発掘調査の報告を分離し、『調査報告』と『年次報告』として刊行しています。これまでに刊行した報告書については、巻末の資料にまとめておりますので、ご参照下さい。

『年次報告』は、調査室の事業概要を迅速に報告するという目的のため、翌年度の早い時期に刊行する体制についていく予定です。また、調査室の事業について、より広くご理解いただけるよう、わかり易いものにしていきたいと考えております。

本年次報告では、埋蔵文化財調査室が2010年度に実施した埋蔵文化財調査の概要、および調査室が実施したその他の事業について概要をとりまとめて、報告いたします。2010年度は、比較的調査は少ない年度でした。青葉山北地区において試掘調査を1件実施した以外は、立会調査で対処可能でした。そのため、比較的腰を落ち着けて整理作業を進めることができました。

一方で2010年度は、埋蔵文化財調査室にとっては、大きな変化の年でもありました。2月には、本部棟4への移転が終了し、ようやく仮施設から脱却することができました。2008年8月に収蔵庫を改造した仮施設へ移動してから、2年6ヶ月間を仮施設で過ごしたこととなります。仮施設では何かと不便で、円滑な業務の遂行に支障をきたしかねない状況でしたので、ようやく体制が整ったと言えます。

そして3月11日には、東日本大震災が発生しました。埋蔵文化財調査室では、家具類の固定などの対策をとっていたことも功を奏して、被害は比較的軽微なものでした。その後、震災復旧・復興事業への対応、被災文化財のレスキュー事業への協力など、調査室をとりまく状況は一変することとなりました。それらについては翌2011年度の年次報告において報告することとなりますが、当調査室にとっても大きな転機となりました。

これら事業の実施にあたっては、学内外の関係機関や関係者の多大なご協力を得て、滞りなく事業を進めることができました。ここに厚くお礼申しあげるとともに、今後もご支援とご協力をお願いいたします。

埋蔵文化財調査室長 阿子島 香